

■東郷茂徳 外交官、政治家。<敗戦>時の外相で御前会議をリード、ポツダム宣言受諾に寄与するも、A級戦犯で獄死。
とうとうしげのり
新体詩抄・・・1882＝ 鹿児島県日置郡の苗代川で、┘慶長の役>で連れて来られた朝鮮人の末裔で自身も一流の陶工となる旧薩摩藩士の子に生まれる。

維新による藩の保護の喪失とその後の朝鮮人差別から、
帝国大学始・1886＝ 4歳：父が東郷姓を入手して以後、出自を隠して日本人として育ち、

初の対等条約1888＝ 6歳：尋常小学校に入学、
帝国憲法発布1889＝ 7歳：

足尾鉍毒始・1891＝ 9歳：

日清戦争始・1894＝12歳：

白馬会・・・1896＝14歳：鹿児島県尋常中学校に進学して市内の師範宅に下宿、
学友が教師の逆鱗に触れた際、その処理を巡って校長の岩崎行親に注目され、

ピアノ/国産化・1900＝18歳：
田中正造直訴1901＝19歳：第七高等学校(造士館)に入学した時に、岩崎もその校長として赴任するなどして可愛がられる。

日露戦争始・1904＝22歳：学友から思想的影響を受け、ドイツ文学に親しみながら、3年間首席を通して、
卒業して、東京帝国大学文科大学独逸文学科に入学、殆ど授業に出ず、先輩2人と(三代会)を結成、
日露戦争終・1905＝23歳：文芸時評を発表するが、
満鉄発足・・・1906＝24歳：(三代会)が解散となり、
病などのため1年遅れで、
アヲキ創刊・1908＝26歳：卒業した際に、成績が最下位になって文芸への未練が無くなり、
伊藤博文暗殺1909＝27歳：父が期待した内務官僚でなく外務官僚を目指して、働きながら猛勉強、
┘(外交官及び領事館試験)に2年続けて失敗後、
┘ようやく合格して外務省に入った。病のため1年遅れで、
明治天皇没・1912＝30歳：領事官補として満州の奉天に赴任、
大正政変・・・1913＝31歳：
第一次大戦始1914＝32歳：

民本主義・・・1916＝34歳：中立国スイスに開設された公使館に、途次腸チフスに感染して苦しみながら転任、
ドイツ女性と2年ほどロマンスがあった後、
本格政党内閣1918＝36歳：敗戦国ドイツに入る最初の日本人外交官の一人として、ベルリン大使館三等書記官となる。
かつて日本で働いていたドイツの建築家の末亡人エディと出会い、まもなく同棲するようになった。

大暴落・・・1920＝38歳：二等書記官に昇進、
原敬首相暗殺1921＝39歳：帰朝命令が出てアメリカ経由で帰国、
水平社結成・1922＝40歳：エディと正式に結婚、
関東大震災・1923＝41歳：長女いせが誕生。┘欧米局一課長となる。

┘日ソ国交回復を実現するなどその実力が知られるようになり、
円本時代始・1926＝44歳：在米大使館首席書記官としてワシントンに赴任、
金融恐慌・・・1927＝45歳：ジュネーブ一般軍縮会議全権委員をつとめる。

世界恐慌・・・1929＝47歳：一旦帰国後、┘ドイツ大使館参事官となってベルリンに赴任、

満州事変・・・1931＝49歳：
五一五事件・1932＝50歳：再びジュネーブで開かれた一般軍縮会議の日本代表部事務総長役を務めた後、帰国、
国際連盟脱退1933＝51歳：┘欧米局長に就任、
帝人疑獄事件1934＝52歳：┘欧亜局長となり、

二二六事件・1936＝54歳：
日中戦争始・1937＝55歳：*ドイツ大使となるも、ナチ政権と相容れず、
健保+総動員1938＝56歳：*更迭されてソ連大使となったが、モロトフと折衝して信頼を得、ノモンハン停戦協定を成立させた。
┘日ソ不可侵条約による米ソ接近牽制を構想して交渉を進めるうち、
大政翼賛会・1940＝58歳：帰朝命令が出、松岡洋右外相の外交官大異動方針に基づく辞任要求を拒否。
日米開戦・・・1941＝59歳：*東条英機内閣で外相(一時拓相を兼ねる)に起用され、折から最終段階を迎えた日米交渉を引き継いだが、
開戦を回避することはできなかった。
・・・1942＝60歳：大東亜省設置に反対、東条内閣に初の政府危機をもたらしたが、結局単独辞職に至る。
辞任後、貴族院議員に勅選され、
敗戦・・・1945＝63歳：*鈴木貫太郎内閣で再び外相となり、国体護持のためのポツダム宣言受諾の方向に主導権をふるった。

┘A級戦犯として<極東軍事裁判>にかけられ、アメリカ人弁護士ブレイクニーによる強力な無罪主張やその他の援護射撃にも拘わらず、<日米開戦>時の外相だったため、20年の禁錮刑となり、

朝鮮戦争始・1950＝68歳：┘拘禁中、病没した。
「大戦外交の手記・時代の一面」東郷茂徳外交手記。